



5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民が心身ともに健康を保つ	施策の成果指標又はムトス指標	心身ともに健康であると感じている市民の割合 %
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	健診により、病気や発達の遅れ等を早期に発見し、対応することは、市民が心身ともに健康を保つのに役立っている。		
	後期に向けた課題	引き続き、健診受診率の向上に努める。社会環境の変化に伴って、検診内容・アンケート・資料の見直し、検討を行っていく必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	幼児健診には心理士を配置し、発達相談をきめ細かく実施した。産後うつアンケートを実施し、早期発見・対応をするように努めた。		
	後期に向けた課題	健診の内容、資料の見直しを行っていく。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	対象人数に応じて、健診回数を検討し実施した。		
	後期に向けた課題	引き続き、健診回数の検討を行っていく。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	受益者負担は無し。母子保健法により市が実施するように定められている。		
	後期に向けた課題	同様に実施		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してありましたか	4年間の振り返り	①主体は乳幼児とその保護者。役割は対象時期に受診し、乳幼児が心身ともに健康を保ち成長するように子育てする。 ②健診受診を促す。未受診者には電話連絡や訪問し受診勧奨する。		
	後期に向けた課題	健診内容を見直し、保護者が自信を持って子育てができるような支援を検討していく必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	受診率は変わらず、高受診率のままである。臨床心理士を健診スタッフとして配置し、発達面での相談に対応し、健診内容の充実を図るよう改善した。		
	後期に向けた課題	相談内容が多様化しており、それに対応していく必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--